



「環境先進国として注目されているドイツも、日本と同様、人口減少問題、若年層失業問題、グローバル化による経済空洞化といった問題を抱えている。移民社会に由来する多くの社会問題もあり、空き家や空きビル増加、住宅管理不徹底・放棄、ゴミ問題、貧困問題などを抱え、コミュニティが崩壊し続けている」

こうした問題地域再生のために、1999年からドイツ全土で展開された運動が「社会都市」プログラムである。社会都市は、サステイナブル・コミュニティを実現するために、環境、経済、社会といった幅広い側面から地域再生に向けたアプローチを重ねている。「サステイナビリティ構築のた

地域の自己改善力を考えるヒント

めの基本的な考え方は、地域の自己改善力を高めること。衰退市街地のコミュニティ再生に大きな役割を果たしているのが、本書で提示したコミュニティ・マネージメント。それは、本質的に地域をベースとする社会変革を促す。そこでは、環境、安全、福祉、教育、文化、雇用を含めた包括的な再生を図るため、地域内の多様な分野の人々や集団の力を生かして、地域を総合的に改善していくことを大きな目標としている」

コミュニティ・マネージメントは、日本で広まりつつあるタウン・マネージメントや、エリア・マネージメントと共通する部分も多い。コミュニティ・マネージメントは、衰退地域だけでなく、さまざまな地域で実態に応じたフレキシブルな取り組みを促すことができる。

「ドイツのことを紹介しているが、私の関心は、常に日本に根ざしている。グローバリゼーションが進展するなかで、地域の個性が消えつつあり、地域の商業や産業が衰退している。地域らしさを見直し、地域資源を活用する」ことで、地域への愛着を高め、地域の産業起こしができる。そのことをドイツの事例は教えてくれる」

日本各地で、地域再生、コミュニティ問題などに関わる市民、商店街関係者、研究者、学生、まちづくり専門家、NPO、行政担当者、政治家など幅広い方々に、これからの社会とまちづくりを考えるためのヒントとして、本書を手にとってほしい。

持続的、自立的なコミュニティ・マネージメントを行うことにより、「コミュニティ力」は着実に高まるだろう。

東京都市大学准教授

むつた

室田 昌子さん

まけい

